

## 平成27年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

### 1 開催日時・場所

平成 28 年 1 月 15 日（金曜日）午後 6 時から午後 7 時 40 分まで  
東京都健康安全研究センター 本館 6 階会議室

### 2 議事及び報告事項

#### (1) 事例の検討について

平成 27 年 6 月 1 日から平成 27 年 11 月 30 日までの間に都医師会、都薬剤師会を通じて収集した 13 事例のうち、12 事例（重度な全身症状 8 例、皮膚症状 3 例、下痢 1 例）について検討を行った。

残り 1 事例（皮膚症状）については、情報提供元に詳細を確認中であるため、次回以降の専門委員会にて検討することとした。

12 事例の検討の結果、積極的に情報収集するよう努めるものとされた 1 事例（皮膚症状）について、都医師会、都薬剤師会を通じて各会員へ留意すべき関連情報も含めて情報を提供するとともに、類似事例の収集への協力を依頼した。

また、10 事例（重度な全身症状 8 例、皮膚症状 2 例）について、平成 18 年 7 月 1 日から収集した類似の事例等を踏まえ、都民への普及啓発について検討すべきとされた。

なお、今回の事例について事前に精査した結果、緊急調査等が必要な事例は無かった。

#### (2) 平成 27 年度第 1 回専門委員会に基づく公益社団法人東京都医師会及び公益社団法人東京都薬剤師会の各会員への情報提供について

次の事項について報告した。

- 平成 27 年度第 1 回専門委員会における検討の結果、積極的に情報収集に努めるものとされた事例はなかったが、都医師会、都薬剤師会を通じて各会員へ引き続き健康被害事例の収集への協力を依頼したこと。

#### (3) 平成 27 年度第 2 回情報選定専門委員会での検討結果について

次の事項について報告した。

- 今年度第 2 回情報選定専門委員会において、当専門委員会での検討結果を踏まえた「健康食品に関する都民への普及啓発のあり方」について、東京都食品安全情報評価委員会にて検討すべきであるとされたこと。

#### (4) 収集事例の集計結果について

平成 18 年 7 月 1 日から平成 27 年 11 月 30 日までに収集した 323 事例の集計結果について報告した。

なお、製品と症状との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

#### ア 収集事例の内訳

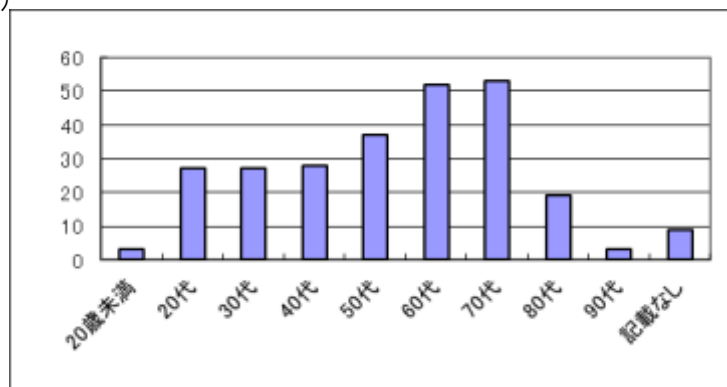
医師会	149人	延べ	203製品
薬剤師会	109人	延べ	120製品
計	258人	延べ	323製品

#### イ 年齢別人数分布

年齢	患者数	利用目的の主な内訳 (その他・不明・記載なしを除く)
20歳未満	3	健康維持・増進・栄養補給 2、ダイエット 1
20代	27	健康維持・増進・栄養補給 3、ダイエット 14、バスタップ 2、美肌 2、強精 1
30代	27	健康維持・増進・栄養補給 5、ダイエット 12、美肌 4、血液をさらさらに 1
40代	28	健康維持・増進・栄養補給 7、ダイエット 9、関節痛(ひざなど) 1、美肌 2、強精 1、ドライアイ 1
50代	37	健康維持・増進・栄養補給 18、ダイエット 5、関節痛(ひざなど) 8、美肌 4、癌予防 1
60代	52	健康維持・増進・栄養補給 15、ダイエット 3、関節痛(ひざなど) 14、血液をさらさらに 1、美肌 1、強壮 1
70代	53	健康維持・増進・栄養補給 17、ダイエット 1、関節痛(ひざなど) 17、血液をさらさらに 3、美肌 1、頻漏尿改善 1
80代	19	健康維持・増進・栄養補給 7、ダイエット 1、関節痛(ひざなど) 9、血液をさらさらに 1、美肌 1、味覚異常 1、血糖値改善 1
90代	3	関節痛(ひざなど) 1
記載なし	9	健康維持・増進・栄養補給 1、ダイエット 2
合計	258	健康維持・増進・栄養補給 74、ダイエット 48、関節痛(ひざなど) 49

健康維持・増進・栄養補給は 90 代を除くすべての年代、ダイエットは 20~40 代、関節痛は 50 代以上が多い。

人数 (N=258)



年齢別人数分布によると、50~70代が多い。

## ウ 性別割合

性別割合によると、女性（192人、74%）は、男性（62人、24%）の3倍以上であった。

## エ 症状・異常所見等

症状・異常所見等	患者数
発疹・発赤・掻痒	94
肝機能障害、肝機能検査値異常	39
胃痛・胃部不快感・吐き気	30
下痢・軟便	23
出血、出血傾向	10
頭痛・吐気	8
めまい・ふらつき	7
便秘	6
血圧上昇	6
尿酸値の上昇	3
その他	73 <sup>1)</sup>

※ 複数回答あり

1) 検査値異常（肝機能検査値・尿酸値を除く）、味覚異常等

症状・異常所見等で最も多かったものは「発疹・発赤・掻痒」の94名で、全体の31.4%を占めている。次いで「肝機能障害・肝機能検査値異常」が39名（13%）、「胃痛・胃部不快感・吐き気」が30名（10%）であった。

なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会  
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿  
(五十音順・敬称略)

	氏名	所属
	梅垣 敬三	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 情報センター長
	小林 弘幸	公益社団法人 東京都医師会 理事
○	志村二三夫	十文字学園女子大学 副学長、人間生活学部 教授
	廣畑 俊成	北里大学医学部 膠原病・感染内科 教授
	松本 有右	公益社団法人 東京都薬剤師会 常務理事
	水谷 太郎	筑波大学 医学医療系 救急・集中治療部教授
	山口 隆司	特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構 事務局長

(○) 座長